


平成31年度 都立学校・学校経営シート

校章		都立大泉高等学校・附属中学校		併設型	中学			高校										
		自主・自律・創造 「探究の大泉」				基 本 情 報	入学 募集人員	男子60人、女子60人			推薦:男子8人・女子8人、学力:男子31人・女子31人							
基 本 情 報	所在地	〒178-0063 練馬区東大泉五丁目3番1号		電話 番号	03-3924-0318(高) 03-3923-4107(中)			入学 選抜 情報	応募 倍率	29年度			29年度		30年度		31年度	
		アクセス	(1) 西武池袋線 大泉学園駅 徒歩 7分 (2) 西武バス 第五上石神井住宅 徒歩7分 (3) 西武バス 石神井郵便局 徒歩7分		男子	6.03	7.10			6.25	推薦	一般	推薦	一般	推薦	一般		
本 情 報	特色ある 教育活動 (学校設定科目等)	① 高校1年、2年で「探究と創造」を実施している。		校 服	男子 女子	制服	学生服(黒)		29年度		30年度		31年度					
		② 中高一貫教育校。6年間の教育課程のメリットを最大限に活用する。				セーラー服・リボン	学生服(黒)	推薦	一般	推薦	一般	推薦	一般					
報	教育活動	③ 英語・数学など主要教科に、少人数授業を実施し、きめ細かい指導を展開。		学校 評価	約2,000			その他	知的探究イノベーター推進校、英語教育推進校、BYOD研究校、海外学校間交流推進校、文化部推進校(将棋部門)									
		④ 部活動や学校行事においても、中高が協力・連携しあい実施している。			毎年、学校運営連絡協議会にて評価実施。生徒・保護者から、85%は肯定的。			ホーム ページ										
目指す学校		自主・自律・創造の教育目標に則り、様々な課題を自らの目で見極め、行動し、解決できる生徒を育て、将来を見通し、国際社会にリーダーとして貢献できる人材を育成する学校を目指す。																

目指す学校 自主・自律・創造の教育目標に則り、様々な課題を自らの目で見極め、行動し、解決できる生徒を育て、将来を見通し、国際社会にリーダーとして貢献できる人材を育成する学校を目指す。

今年度の重点目標		今年度の取組と自己評価										
目 標 ①	知的探究活動の充実を図る。 知的探究イノベーター推進校として学校全体で探究活動を推進する。附属中学校では、課題発掘セミナーや授業を通じて探究活動の素地を身に付ける。高校1年では、「探究と創造」の時間を通じて、探究の手法を身に付ける。高校2年では、仮説検証型の探究を実践することで、さらなる充実を図る。	○「探究と創造(QC)」の授業を高校1年生、高校2年生で実施した。東京大学、お茶ノ水女子大学、東京学芸大学、早稲田大学などの先生方や大学院生、学部生と連携し、各学年週2時間実施した。中間発表では、156のテーマで発表を行った。高校1年生は最終発表、高校2年生は論文作成まで円滑に実施できた。 ○BYOD研究指定校として、高校の探究活動においてICT機器やスマートフォンを活用したデータ入力等を積極的に実施した。 ○中学校では、高等学校の探究活動に向けた新たなプログラムを実践できた。										
目 標 ②	生徒の第1志望の進路実現を図る。 保護者・生徒に対し十分な面接やガイダンスの機会を設け、高い志をもつ勇気と安心感を与える。 進路キャリア部を中心とした6年間を見通した組織的な進路指導体制を充実させ、生徒の進路実現の充実を図る。そのために、進学指導重点校等の指導体制を研究し導入する。	○進路キャリア部を中心に模試分析会、出願検討会を組織的に実施したことで、進路指導に対する共通理解が図れたことで、進路実績が向上した。 ○各保護者会での進路結果報告会や学習ガイダンスを実施できた。また、卒業生のデータの蓄積から本校独自の指標を整えるなど、中高一貫教育校の進路指導としての業務が、内容・実効性ともに完成に近づいた。 ○今後も生徒の第1志望を大切に、国公立大学への進学指導のノウハウを更に高め、充実させていく。										
目 標 ③	組織的な指導で生徒の学力向上を図る。 教科主任を中心とした3・6年間の組織的な教科指導計画に基づき、アクティブラーニング、探究型学習の推進を図ることで、生徒の学力向上を図る。長期休業中の講習を進路キャリア部を中心として組織的・計画的に実施することで講習の更なる充実を図る。	○定期的な教科主任会の開催により各教科における6年間を見通した教科指導計画の見直しと検討を進めた。模試分析会における分析結果をもとに、各教科で指導内容の検討を進める体制が整った。 ○アクティブラーニング先進校への視察や探究型学習の教員研修を実施したことで、主体的な学びに対する意識を高めた。 ○進路キャリア部が中心となり、教科主体の補習・補講の提供を確立できた。昨年度以上の講座数となり、生徒の進路別の講座も増やすことができた。今後も、校内の進学指導体制の推進に努める。										

数 値 目 標	今年度の数値目標の内容	28年度		29年度		30年度		今年度		32年度	33年度	34年度
		目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	目標	目標
目標①	附属中学校における課題発掘セミナー実施回数	—	—	—	—	—	—	19	16	19	19	19
目標②	国公立大学 現役合格者 55名	55	51	55	35	55	34	55	40	55	60	60
目標③	難関私立大学 現役合格者 80名	75	95	100	50	100	50	80	67	90	100	100

